

石川文洋著 日本縦断 徒歩の旅 65歳の挑戦

八柳 修之



石川文洋著「日本縦断 徒歩の旅」～65歳の挑戦

2004年5月20日 第1刷発行 岩波新書。

80の壁は超えたものの、とみに足の衰えを感じている私にとって、長い距離を歩いた人の記録読むことは活力源となっています。

石川文洋は1938年生まれ、私と同じ年である。経歴を紹介すると、65歳のとき北海道宗谷岬をスタートし生まれ故郷の沖縄の那覇まで日本列島縦断3300km、徒歩の旅を思いたち実行した。

石川は5歳の時、沖縄から千葉県船橋市の団地に移住した。父親は沖縄では知られた小説家であったが、本土では売れず、生活費は新聞発達に頼っていた。歩きながら外国へ行くことを夢見た。映画好きでアメリカの豊かさに憧れていた。

1964年、26歳のときアメリカを目指して無銭旅行を企て日本を離れたのも、その時の夢が心の底で息づいていたからだと述べている。1948年、46歳のとき、15年間勤務していた新聞社を退社したのも、アフリカへ行って見たいという子供のときの夢があったからだ。ベトナム戦争のさなか、1965年1月から1968年12月までベトナムのサイゴンに滞在し、アメリカ軍と南ベトナム政府軍に同行取材した。

ベトナムから帰国後、朝日新聞社にカメラマンとして就職、市川市に住み、出勤前、ほとんど毎日8km位ジョキングをした。1984年、新聞社を退社したとき身長164cmに対し体重は65kgになっていた。

2001年8月には標準体重59kgに対し72.6kgになっていた。遅まきながら健康上、外見上、ウォーキングを始めた。

このころ、信州に移住、一日約7km（帰途の1.5kmは急こう配）。2002年2月～3月アフガニスタン取材で3kg減量、禁酒によるものであった。中仙道・木曽路を3泊4日で120km歩き、この旅で日本縦断の旅を2003年に実現させようと決断した。木曽路を歩いたときの経験から一日の歩行距離30km、歩行実数121日、休日9日、計130日という計算。**旅行費**：定収入は年金、月156,768円のみ、旅の費用は一日1万円と見積もった。スポンサーは見つからず、コダックからネガカラーの提供を受けたのみ。

旅行の報告を定期的に送る契約4社、「戦争はなぜ起こるか」の印税を前借した。

旅支度：リュックは「GROBE TRIP」、靴はブリジストン、3,980円。衣類、カメラ、懐中電灯、洗面用具、室内用の草履など総重量18kg、携帯電話は持っていなかったが出発前日妻から渡された。

宿泊：徒歩旅行のことが新聞で紹介されたので、知人を含め多くの人から、お宿すると連絡をいただいたが翌日の歩行に影響することを考え、民宿、旅館、ビジネスホテル等を利用することにした。計画書をもとにとりあえず北海道の宿泊予定地の宿泊施設等を妻がインターネットで調べ、ノートに貼り、現地についたら電話で予約することにした。

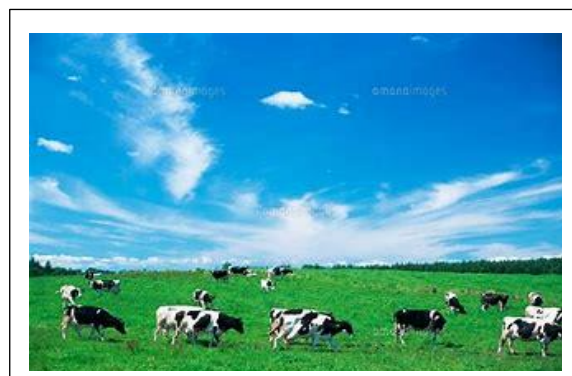
自然の美、人情の美 北海道

7月15日：宗谷岬～稚内市、30.5km：8時：朝日・共同・北海道新聞、NHKTV、地元TV、それに妻に

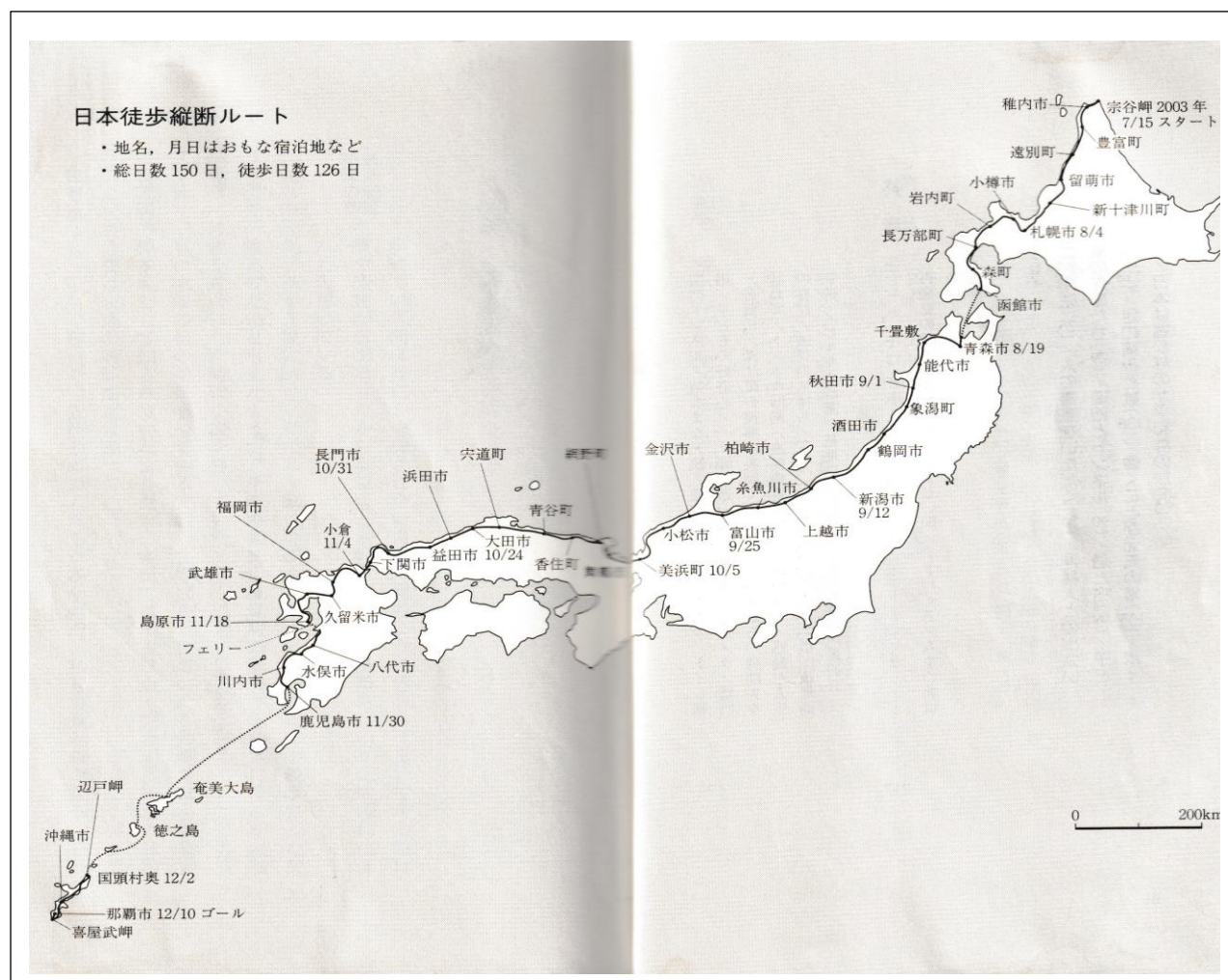
見送られて宗谷岬をスタート。リュックの総重量は 15 g。 以下、石川が歩くのにおすすめの道路の画像を中心にまとめて見た。石川は沖縄をはじめこれまでの経歴のなかで知人が多く、また各地では地元の人々や旧知の人々との温かい交流が記されており、心温まる話ばかりであるが、割愛し各地の風景を中心にまとめた。写真は石川が歩くのにおすすめ道路、スポットであり、挿入した写真はいずれも各市町村等の HP 掲載の無料画像によっています。

7 月 18 日：稚内市～豊富町兜沼、30 km 道の両側は牧草地が広がり、道端にあやめ、タンポポが咲き乱れ牧場の彼方に利尻富士が見えた。

7 月 21 日：国道 232 号 天塩町～遠別町、20 km 寒いので合羽の上着を出した。牧場が見える。



日本縦断徒歩の旅より転写しました。





7月30日：増毛町～留萌市、朝から強い雨。残念ながら戻ってコースを変えることにした。増毛の後は海岸に沿って小樽まで行く予定であったが、増毛一雄冬間にある八つのトンネルが怖かった。

7月31日：留萌市～沼田町 35 km

留萌～新十津川と内陸を通してから石狩へ出ることにした。石狩沼田駅の旅館の人が、私の到着が遅いので迎えに来たが、つらいのを我慢して約2 km歩きやっと宿に着いた。

8月1日：沼田町～新十津川町 32 km



北海道にこれほど多くのソバ畑があるとは知らなかった。あちこちの畑に白き花が一面に咲いている。ひまわりの花がたくさん咲いているサンフラワーパークでしばらく時間をつぶした。以前、南スペインのアンダルシア地方を旅行したとき、やはりひまわり畑を見て感動したことがある。

8月3日：月形町～当別町 32 km ホテルは新しく、和室も6人用で、一泊二食付7,120円と温泉ホテルにしては安かった。雨の中出発した宿に着くと雨はレインコートを通し肌着までびしょりだった。

8月4日：当別町～札幌市 25 km。石狩から小樽へ出る予定であったが急遽、札幌経由にした。

8月5日：札幌市～小樽市朝里 20 km 北一条西三丁目のホテルから札幌郊外まで約3時間かかった。札幌は広い。この3週間で体重が5 kg減った。早朝スタートで朝食を食べる時間がなくカロリーメイト、昼食も握りめし二個でお腹いっぱいになる。 8月6日 小樽滞在、石原裕次郎館を見た。

8月8日：余市市～共和町国富 25 km 台風が近づいている。雨、稲穂峠への登坂が続く。1230mの稲穂トンネルは歩道がなく、路側帯と呼ばれる50 cmぐらいの道、大型トラックが頻繁に通る。緊張して通りぬける。

8月9日：国富～岩内町 11.5 km 台風が近づき雨の降る、岩内に向かう。

8月11日：岩内町～雷電温泉 13 km、メロンを自宅に送った。どこの宿泊施設は満員で夕食付一泊1万円の温泉ホテルに泊まった。(今回の旅で一番高い)

8月12日：雷電温泉～黒松内町 35 km 海岸線の方が写真として面白い。海岸にはウニ丼、焼き魚定食と書かれた食堂があったがコンビニで買った軽食にした。雷電国道から離れて長万部へ向かう道道9号に入った。

8月14日：長万部町～八雲町 30 km 6時過ぎ頃、特急カシオペアが停車していた。一度は乗ってみたいと思っていた列車である。旅館の夕食は魚が中心であったが久しぶりに焼き肉。

8月17日：国道5号 赤井川～函館市 30 km 宗谷から33日 675.5 km

七飯町の13 km続く赤松街道の松並木は見事であった。



8月17日：函館市滞在、出迎えた妻とプラザホテルでビールを飲む。

三つの誓い

- ① 旅が終わるまで家に帰らない
- ② バス、電車に乗ってコースに空白区間を作らない、
- ③ 荷物を他人に運んでももらわない。

移りゆく日本を見る 東北・北陸

8月21日：青森市～五所川原市 30 km 「北海道以外を歩いている」という実感が沸いてくる。自動車のスピードが北海道よりゆっくりしているように感じる。

8月22日：五所川原市～鱒ヶ沢町 25 km リンゴの木と岩木山の風景



メロン、スイカの即売所が道路に並んでいた。野菜を売っていた女の人から「水がわりに食べていきなさい」と言われた。

8月23日：鱒ヶ沢町～千畳敷 17.5 km イカを干し、その場で焼いて食べさせる店が並んでいた。町中に理髪店があったので、店に入った。が調髪し、妻が洗髪し整えた。いい光景。

8月24日：千畳敷～深浦町 20 km 風合瀬漁港に活気があった。大勢の女性たちが男の中で仕事しているのが目立った。港で働く女性をテーマに2時間近く撮影。

8月26日：十二湖～秋田県岩館漁港 18 km、北海道は34日歩いたが、青森は5日間、北海道に広さを改めて知る。

8月27日：八森町岩館～能代市 33 km、岩館湊、八森港で「海の男」をテーマに撮影。

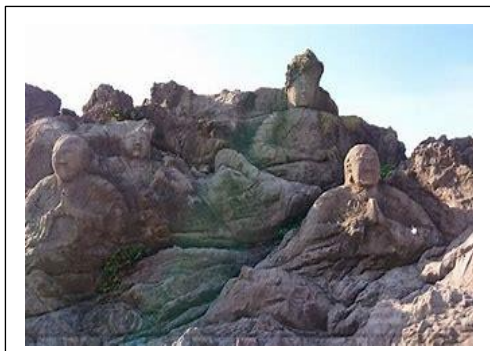
8月28日：能代市～八郎潟町 30 km、雨、八郎潟に入植し30年、稲作をしている沖縄出身の人が待っていて宿で苦労話を聞いた。(沖縄出身者は全国におり、その県人意識は強く石川の来訪を待っている)
29日～31日まで、依頼されていた長野市で開催される沖縄修学旅行研修会のため長野へウォーク中断3日間

9月1日：八郎潟町～秋田市土崎 23 km：沖縄入植者の八郎潟の水田見学、トラクター、コンバインの

大型農業

9月2日：土崎～岩城町 23 km 米どころ秋田、秋田を「パチンコ天国」と呼ぶ人がいるようで、あちこちに派手で奇抜なパチンコ店、異様な風景

9月5日：象潟町～山形県遊佐町吹浦 18 km、



東北に入ってから天候が安定せず、鳥海山は霞んで見えた。芭蕉が弟子の曾良と歩いたという三崎峠を歩いた。芭蕉は1689年3月27日（陰暦）弟子の曾良とともに江戸の深川を出発。この時芭蕉46歳、日光、福島、石巻、日本海側の酒田、新潟、金沢、福井、大垣まで、その距離約600里、2,400 km。江戸から大垣まで全行程143日、日数52日、芭蕉は一日平均約30 km弱、歩いたとされる。

東海道、中山道など旅した江戸時代の男子成年は一日平均40 kmくらい。大石内蔵助が京から江戸へ下ったときも、一日40 km位歩いた計算による。芭蕉は酒田から象潟まで行き酒田に戻っているが、それは西行の見た象潟を自分の目で確かめたいという気持ちからだったのだろう。当時の象潟は松島のように沢山の島があり、絶景だったようだ。写真は遊佐町十六羅漢岩

9月6日：吹浦～酒田市 20 km 吹浦の国民宿舎には「ツーディズマーチ」に参加する人が泊まっていた。8年かけて各地を3万キロ以上歩いたという人もいた。

9月9日：鼠ヶ関～新潟県山北町板目 20 km、海水から塩を作って販売している店が数軒あった。木材が燃えて海水が煮詰められていた。15時間かかり1000 lの海水から1.8kの塩がとれるとのこと。

9月10日：板目～村上市瀬波温泉 27 km
笹川流と呼ばれている沿岸は、海に中に様々な形をした岩があり歩いていて楽しい。



道路とトンネル

「旅行中、不愉快なことはなかったか」と聞かれたことがある。トンネル、道路、突然の雨以外ない。徒歩の旅を楽しむ最大の条件は安心して歩くことができる歩道のあることだ。車道より一段高くなった歩道さえあれば自動車がたくさん往来しても心配はない。古いトンネルは路側帯だけというところ多く恐怖を感じた。歩道に草が繁っているので歩けない所もあった。排気ガスは心配したほどではなかった。

9月13日：新潟市滞在「戦争はなぜ起こるのか 石川文洋のアフガニスタン」（冬青社）校了
妻からの宅配便で靴とファイルが届いた。ビールで乾杯。

9月15日：新潟市～巻町越前浜 24 km、ススキの穂が揺れている。秋の訪れを感じる。砂浜で3人の子供が波と遊んでいる風景はなぜか懐かしい。

9月17日：寺泊～柏崎市宮川 25 km、出雲崎に良寛の生家があり良寛堂があった。芭蕉が泊まったという旅館前に「荒海や 佐渡によこたふ 天の河」と書かれた碑があった。

9月21日：能生町～糸魚川市 15 km、旅の中間点、距離的にはまだ半分に達していないが気分的には中間点



9月22日：糸魚川市～富山県朝日町 27 km 親知らず子知らずトンネルの恐怖。最初の540mは歩道があったが、そのあと「洞門」、路測帯だけで歩道がない。トンネルと洞門の14.3 km。10時に最初のトンネルに入ってから洞門を出たのは40分、緊張の連続だった。

9月23日：NHK「おはよう日本」で、宗谷岬から徒歩の旅が15分間放映された。以降、放送を見たよ、頑張ってと励ましの言葉をかけられるようになる。

9月27日：福岡町～金沢市 37km、妻がフィルム、着替え、手紙など持って来た。

9月30日：小松市～加賀市片野町、20 km 保育園で運動会をしていた。もうそんな季節か。自衛隊のF15型戦闘機が離着陸の訓練で喧しい。嘉手納基地を思い出した。



石川県 橋立漁港



福井県 越前市 岩礁風景

10月2日：三国町～鷹巣海水浴場 22 km 越前松島、東尋坊から遊歩道を歩く。

10月6日：美浜町～小浜市田島 22km 途中で帽子を落とす。別な帽子をどこかで買おうと思っていたとき、車に乗ってきた人に声をかけられ一緒に引き返す。やはり道路に帽子は落ちていた。

三方町第二小学校の先生に声をかけられた。新聞で知り近くを通るかもしれないと待っていたという。学校に立ち寄り子供たちに拍手で迎えられた。子供たちに「夢を持つことは大切だ。夢をいただき続けは、いつかは、実現する。私の徒歩旅も夢の実現です」と挨拶した。女の先生が車で追いかけてきて「梅ウォーター」を下さった。

この日の民宿の夕食はすごかった。今回の旅のナンバーワンである。刺身はイシダイ、アカラ（キジハタ）、それぞれ一匹分とイカ、甘エビが皿に盛ってある。カニ半身、キジハタ煮つけ、天婦羅はエビ、キス、シシトウ、ナス、サツマイモ、シソの葉、サザエ2個、ホタテ1個もついた。一泊二食付きで7000円、部屋、洗面所も清潔、素朴な宿のご主人と奥さんがいい。

ファインダーの向こう側に 近畿・山陰

10月9日：舞鶴市～宮津市由良、24 km 海上自衛隊の基地に大きな護衛艦が並んでいた。

- 10月12日：網野町～久美浜町、20 km 網野町磯というところに静御前の祠があった。静御前は磯の出身で、頼朝に追放された後は故郷に戻り晩年を故郷に戻ったとの説明書きがあった。
- 10月15日：下浜～浜坂町諸寄、23 km 余部の谷に山陰本線の長い鉄橋、タイミングよく電車が通った。秋の気配が漂い、ハゼ、ウルシなどの葉が色づき始めた。どんぐりが沢山落ちている。
- 10月16日：諸寄～鳥取県福部村、30 km この旅の最初から決めていた鳥取砂丘へ行く。サハラ砂漠をいつか撮影してみたいと思っていたからだ。
- 10月27日：下府町～三隈町、28 km 国道9号を歩いていると、周囲は山ばかりである。平地が少ないので住宅街、工場も見られない。島根県は人口密度が低いという点では北海道、岩手に次いで全国三位、食料品、工業製品の出荷量が少ない点では、沖縄に次いで二位という。コンビニがないので食料品を手に入れることが出来ず、3時過ぎ頃、やっと一軒の食堂にたどりつくことができた。
- 10月28日：三隅町～益田駅、23 km 三隅町は1983年7月の集中豪雨で死者111人の死者が出たところ。災害当時の人口は9700人、3000戸のうち2000戸が破壊、町はいま完全に復活している。
- 10月31日：越ヶ浜～長門市駅 34 km 萩市内を通る。木戸孝允、高杉晋作の生家を見物、山口放送のインタビューを受ける。
- 11月1日：長門市駅～特牛港、32 km 7月15日に宗谷岬を出発してから3か月以上が過ぎ11月を迎えた。山ではウルシやハゼが色づき、秋も深くなってきたという感じがする。日本の3分の1以上を歩いたことになる。明後日の夜には下関に着く。

歩きながら考える「平和」 九州・沖縄

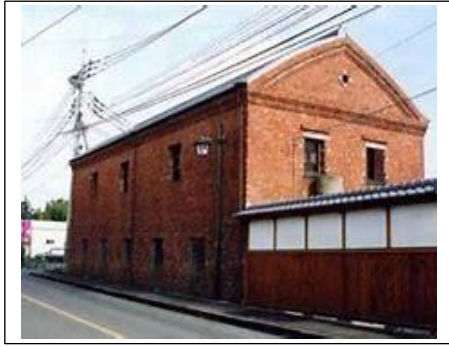
- 11月4日：下関市～北九州市小倉駅 21 km 海峡には全長1068mの自動車専用道路があり、1973年から営業している。トンネルは1958年に完成、上は自動車、下は歩行者と自転車専用。



関門海峡 対岸を眺め独特の気分が味わえる

465号 若松区～芦屋町 銀杏並木

- 11月8日：福岡市博多滞在 妻がフィルム、着替えなど持って来た。二人で能古島へ行った。
- 11月12日：佐賀市滞在 終日ホテルで原稿書き 14日：武雄市滞在、約30年前のカンボジアで亡くなった一ノ瀬カメラマンの母親を訪ねた。



佐賀 牛津町～大町町 古い町並み 赤レンガ倉庫 長崎、251 号 普賢岳と有明海

11 月 17 日：諫早市～吾妻町：16 km, 1991 年 6 月 3 日、雲仙普賢岳の火砕流で 43 人の尊い生命が奪われ、9 月 15 日には大野木場小学校と周辺の民家が焼け、その後も火砕流、土石流が続き田畑、民家の被害が広がった。当時、フリーになった私は 93 年 2 月から翌年 5 月まで、復興に活動する人々の活動を写真集にまとめた。その時から、10 年振りの再訪であった。

18 日：吾妻町～島原市：30 km 干拓地の水門が見えた。水門の外で海水が満ちていた。海水が乾き地肌が見えるところまで行った。吾妻町側から高来町側まで堤防が一直線に築かれているのが見えた。

12 月 19 日：島原市滞在：深江町取材、新しくなった大野木場小学校取材。島原市、深江町の復興ぶりに驚き これこそ日本の国力だと思った。

12 月 20 日：島原市～熊本県松橋町 27 km、8 時 35 分発のフェリーに乗る。熊本まで 30 分

11 月 24 日：水俣市～鹿児島出水市：20 km 水俣病資料館。12 月 25 日：出水市滞在、ツルが見られた。



11 月 28 日：川内港～串木野市：25 km 門司から 336 km の標示 女の子三人がランドセルを置き石けり遊びをしていた。

11 月 30 日：伊集院町～西鹿児島駅：25 km とうとう鹿児島市街に入った。明日は沖縄へ行く船に乗るから、本土の最終地点である。

12 月 1 日：西鹿児島駅～鹿児島新港：3 km 船の旅は好き。一番安い二等を買った 12,300 円 18 時出港

12 月 2 日：船上～沖縄県国頭村奥 朝 5 時半頃、奄美大島名瀬港に着いた。その後、徳之島、沖永良部島、与論島を廻った。台風の影響で約 2 時間遅れて本部港に着岸。地元の新聞と TV の取材を受けた。

12 月 3 日：国頭村奥～同村辺土名：30 km 民宿の前の橋が国道 58 号の起点。終点の那覇市まで 125 km の標示があった。

12 月 4 日：平良～名護市瀬嵩：24 km 平良湾に沿って国道 331 号を歩く。西海岸の 58 号と比較すると、東海岸は地味な光景として目に映る。慶佐次（がさし）でマングローブが自生している景色を見た。



12 月 6 日：瀬高～金武町：22 km キャンプ・シュワブの前を通った 入口には自爆攻撃を防ぐためかコンクリート・ブロックが並べてある。戦車部隊を含め海兵隊約 3000 名が駐屯している。

12月7日：金武町～沖縄市：29 km 辺土岬、夕日がきれい。

12月10日：糸満市～那覇市：15 km 徒歩の旅の最終日 国道58号の最着地点、明治橋で記念写真。

ゴールの「パレットくもじ」に報道陣、歓迎委員会、見物の人、100名ぐらいが待っていた。

宗谷岬を7月15日に出発して以来**149日、歩いた総距離3,184 km**。当初計画では3,300 kmとしていたが、北海道で松前町経由を変更するなどもあった。

歩き終えて

徒歩の旅で私はなにを得たのか。出発前に「自分を見つめ直す」よい機会だと考えていたが、旅へ出る前と後では私は何も変わっていない。私に「自分を見つめ直す」というようなことができないことが分かった。歩いているときはあまり物事を考えられないことも分かった。 風景を眺め、写真を撮る。ぼんやりと歩く毎日だった。やはり日本再発見の旅だったといえよう。36枚撮りフィルム 333本、約12,000カット。今回の旅で見た日本の風景、出会った人々は、このフィルムの中に収められている。

健康：出発時、73kgあったが体重は到着時62.2kg 健康診断はすべての項目において改善した。

行政への要望：歩道の完備、細くともよいから車道より一段高くなった道、難しければ柵をつけてもらいたい。トンネルも同様。トイレ；5～6 kmぐらいに歩行者専用トイレがあると安心して歩ける。

雨、日差しをさける屋根付きのベンチとテーブルがあるとよい。

これから日本縦断を実行しようとしている人への経験からのアドバイス

- ① 靴、5足使ったが、3,900円のブリジットストーンのウォーキングシューズ。それほど高級でなくとも500 kmぐらいは大丈夫。
- ② 私は13kgをずっと背負っていたが、荷物はできるだけ少ない方がよい。洗濯は毎日した。民宿、旅館では洗濯機を使わせてくれる。洗濯機がないときは洗面所か風呂場で洗った。小さな町には銀行がないので郵便局のカードを持っておくと便利。
- ③ 眠る場所はどのような旅をするかで変わってくる。テント持参か、バス停、駅、道の駅など利用するか、友人宅に泊まるか、すべて宿泊施設を利用するか。以上を併用するか。
目的地にどんな宿泊施設があるか事前調査。予約などのためパソコンを持つとよい。（現在は小型で便利な通信機能もあるスマホがある）
- ④ 今回の旅での宿は旅館39、民宿29、ホテル45、ビジネスホテル7、国民宿4、ペンション、ユースホステル、国民年金保険センター、厚生年金休暇センター、個人宅各1、民宿・旅館は大体1泊2食付き7,500円。ホテル、ビジネスホテル、食事なし、5000円～7000円

以上

FWA 会員 大和田精吾さんは、平成27年に宗谷岬から佐多岬まで日本縦断3,000kmを達成されております。その記録はホームページ「ひろば」に掲載されていますので、あわせてご覧ください。